

まちのイメージ2

次代を担う人と文化を育むまち（教育・文化）

2-1 共に学び、成長が実感できるまちづくり

「2-1 共に学び、成長が実感できるまちづくり」が目指すビジョン

次世代を育成するために教育に力を入れ、「立志」と「忠恕^{ちゆうじよ}」の思想を生涯貫いた栄一の考えを大切にしながら、以下の取組を実践します。

次代を担う子どもたちの確かな学力や豊かな心と健やかな体を育むとともに、家庭・地域・学校が連携して、地域総がかりで子どもたちの育成に取り組みます。

これにより、すべての子どもたちがたくましく、健やかに成長できるまちを実現します。

（基本施策・個別施策に
関連する写真）
※デザインの段階で調整

（基本施策・個別施策に
関連する写真）
※デザインの段階で調整

深谷市が目指すSDGsのゴール（教育分野）

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を（社会） あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに（社会） すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう（社会） ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8 働きがいも経済成長も（経済、社会） すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用を推進する</p>

市民や事業者のみなさんが取り組めること



- 学校応援団などの子どもたちの教育に関わるボランティアに参加し、自分が持つ知識や技術を子どもたちのために役立てる。
- 朝夕の登下校の子どもたちに対してあいさつを行うなど、地域の日常の中で子どもたちとの関わりを意識する。



2-1 共に学び、成長が実感できるまちづくり

2-1-1 「生きる力」を育む学校教育の推進（P.86）

2-1-2 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上（P.88）

（基本施策・個別施策に
関連する写真）
※デザインの段階で調整

（基本施策・個別施策に
関連する写真）
※デザインの段階で調整

渋沢栄一が遺した功績や精神・考え方など（教育分野）

- ・ 栄一は教育分野でも尽力し、特に実業教育に力を入れました。とりわけ、商人の地位を向上させ、幅広い知識を得ることで、経営者になれるような人材の育成を行いました。設立に関わった学校には、商法講習所（現在の一橋大学）や大倉商業学校（現在の東京経済大学）をはじめ多くの商業学校があります。
- ・ また、栄一は、「新しき時代には新しき人物を養成して新しき事物を処理せねばならない」と言っており、次世代を育成するために、さまざまな学校の設立や教育への資金援助に熱心に取り組みました。
- ・ さらに、学校の設立以外にも学生に対する支援をしています。埼玉県出身の学生のための寄宿舎をつくるため、埼玉学友会が結成され、明治35（1902）年に埼玉学生誘掖会が創設された際、栄一は初代会頭に就任しました。会頭に就任後、栄一は積極的に行事にも出席し、学生たちとの交流を図りました。
- ・ 「立志」（夢を持ち志高く生きること）と「忠恕」（まごころ・思いやり）は栄一が生涯貫いた思想と言われており、現在の深谷市の教育に引き継がれています。



2-1-1 「生きる力」を育む学校教育の推進

5年後の 目指す姿

郷土の偉人・渋沢栄一の立志と忠恕の精神を大切にしながら、次代を担う子どもたちに、確かな学力や豊かな心と健やかな体が生まれ、子どもたちが安全に安心して学校生活を送っています。

◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
全国学力・学習状況調査の正答率が県平均を上回る小学校・中学校の割合	小34.2% 中30.0%	小58.0% 中55.0%
全国学力学習状況調査において、国語、算数(中学校は数学)の問題それぞれで、県平均を上回った市内小中学校の割合であり、子どもたちの確かな学力が育まれているかを測る指標です。		
不登校生徒のうち、支援を受けることが出来ている割合(小・中学生)	80.9%	85.0%
適応指導教室など学校外の機関などで相談・指導を受けた、もしくは学校内において養護教諭やスクールカウンセラーなどによる専門的な相談・指導を受けた児童生徒の割合で、不登校児童生徒の多様で適切な教育機会を確保できているかを測る指標です。		
新体力テストの総合評価で上位3ランク(A+B+C)の児童生徒の割合(小学校・中学校)	小80.4% 中81.4%	小85.0% 中85.0%
国が実施する「新体力テスト」の5段階総合評価のうち、上位3ランクの児童生徒の割合であり、子どもたちの健やかな体が育まれているかを測る指標です。		

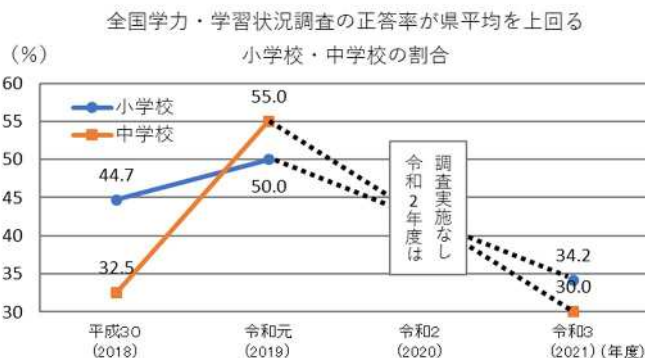
◆施策を取り巻く社会状況

子どもたちの学ぶ意欲や自己肯定感の低下が指摘されています。また、高度情報通信社会のもと、インターネットの普及によりいじめやトラブルが増加しており、より一層の不登校やいじめへの対処、道徳教育の充実が求められています。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、休校、感染症対策の徹底、学校行事や部活動の制限などにより、児童生徒の学習面や心理面などに影響が表れたことから、あらゆる手段で、子どもたち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障する取組が必要となっています。

◆深谷市の現状と課題

1 子どもたちの確かな学力を育むことが求められており、今後もさらに教員の授業力向上のために、研修の充実が必要となっています。また、GIGAスクール構想により、児童生徒に1人1台の学習者用端末と学校の高容量のネットワーク環境の整備が令和2(2020)年度に完了し、今後、これまでの教育実践とICTとを適切に組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びの実現が求められています。

2 不登校やいじめ問題に関しては、未然防止や早期対応を図ることはもとより、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな支援が求められています。また、子どもたちの体力向上に向けた体育授業や運動部活動の充実に取り組み、子どもたちの心身の成長を図ることが必要となっています。



3 学校施設の建物の耐震化については、小中学校、幼稚園がすでに完了していますが、学校施設の老朽化対策を早期に進めることが重要となっています。

◆取組方針

1 子どもたちの確かな学力を育みます

教員の授業力向上に加え、学力向上にかかる人的支援を充実するとともに、キャリア教育やICT教育などの充実により、子どもたちが時代の進展に対応できるようになるための資質の育成を図ります。また、市立幼稚園を再編し、幼児教育の充実を図るとともに、多様化する保育ニーズに対応するため、保育サービスの充実を図ります。

【主な事業】

少人数指導事業、学力向上推進事業、中学生補習学習運営事業、小・中学校教育活動推進事業、国際化教育推進事業、渋沢 spirit in ふかや GIGA スクール推進事業、幼稚園教育活動推進事業

2 子どもたちの豊かな心と健やかな体を育みます

「渋沢栄一翁 こころざし読本」を活用した道徳教育や、子どもたちに対するきめ細やかな教育相談、子どもたち、保護者及び教員への適切な指導助言を行うことで、子どもたちの豊かな心を育みます。また、教員の指導力の向上や地域人材の活用による部活動の充実を図るとともに、学校における食育や性に関する指導を充実することにより、子どもたちの健やかな体を育みます。

【主な事業】

教育研究所管理運営事業、特別支援教育事業、いじめ・不登校対策事業、ふるさと教育推進事業、体力向上推進事業、学校人権教育推進事業、幼稚園健康・安全教育推進事業、小中学校給食事業

3 安全な学校施設と充実した学習環境を整備します

学校施設の点検により機能維持を図るとともに、深谷市学校施設長寿命化計画に基づき老朽化した施設に対する大規模改修工事などを計画的に実施し、子どもたちの安全確保を図り、ニーズの変化や気候変動に対応した良好な学習環境を整備します。また、学校図書館の読書センター機能に加えて、学習センターや情報センターとしての機能を充実することにより、子どもたちの主体的な学習活動を支援します。

【主な事業】

学校施設大規模改修等事業、学校施設維持事業、学校施設整備事業、情報教育推進事業

◆関連する個別計画

- ・第3期深谷市教育振興基本計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）
- ・深谷市学校施設長寿命化計画（令和2（2020）年度～令和4 1（2029）年度）
- ・深谷市学校施設長寿命化実施計画（令和2（2020）年度～令和1 1（2029）年度）

◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール				
ターゲット	5	1, 2, 5, 6, 7, a	6	6

2-1-2 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上

5年後の 目指す姿

家庭・地域・学校の連携体制を強化することにより、地域総がかりで子どもたちの育成に取り組む中で、子どもたちが健やかに成長しています。

◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
地域の行事や活動に参加している子どもの割合	64.1%	73.0%
全国学力学習状況調査において、市内全小6児童及び中3生徒のうち、地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合であり、家庭・地域・学校の連携による教育力が向上しているかを測る指標です。		
学校応援団の年間延べ活動回数(1校当たり)	178回	300回
保護者・地域住民が、学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う「学校応援団」の取組が、市内29の小中学校において1校当たり平均何回行われているかを示す値であり、家庭・地域・学校が協力する教育体制が整っているかを測る指標です。		

◆施策を取り巻く社会状況

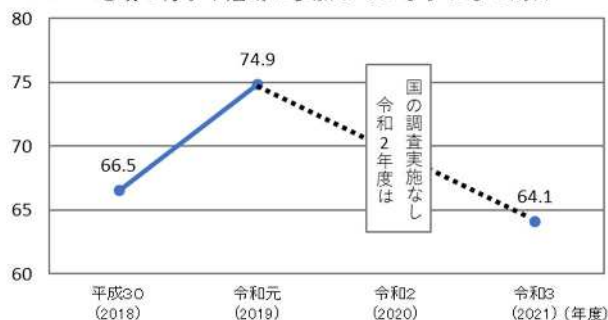
核家族化、少子化などの要因から家庭の教育力の低下が懸念されています。また、地域のつながりの希薄化により、子育てを学び助け合う機会が減少しており、地域の教育力の低下も懸念されています。こうしたことから、家庭や学校、地域が一体となって、子どもたちの成長を支えることが求められています。

◆深谷市の現状と課題

1 公民館などでは、小・中学生の保護者を対象とした講座などを開催しており、引き続き情報提供を通じて、子育てや家庭教育を支えていく必要があります。

2 令和3(2021)年度には市内全小・中学校に、地域のコーディネーター役として地域学校協働活動推進員を配置し、学校運営協議会や学校応援団と連携しながら、地域総がかりで子どもたちの育成に取り組んでいます。今後は、家庭・地域・学校の協力体制の強化に向け、関係団体における人材確保が必要となっています。

(%) 地域の行事や活動に参加している子どもの割合



◆取組方針

1 家庭の教育力の向上に向け支援します

小・中学生の保護者を対象とした「親の学習」や「家庭教育学級」を開催することにより、家庭における教育力の向上を図ります。また、教育情報紙などの発行により、家庭における意識の啓発につとめるとともに、知識の習得を支援します。

【主な事業】

家庭教育事業

2 家庭・地域・学校が協力する教育体制を強化します

子ども学習支援事業「がんばル〜ム」・平日放課後子ども教室を実施するとともに、子どもたちの世代間交流や、学校と地域が連携した教育支援の体制づくりなど、地域学校協働活動推進員を中心とする学校と市民の協働により、子どもたちの成長を支援します。また、学校応援団など地域の方の関わりやその活動を充実することにより、地域総がかりで次代を担う子どもたちの成長を支援します。

【主な事業】

社会教育事業、子ども学習支援事業、家庭・地域・学校連携推進事業

◆関連する個別計画

・第3期深谷市教育振興基本計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール	
ターゲット	1

2-2 誰もが生きがいを持ち、学ぶことのできるまちづくり

「2-2 誰もが生きがいを持ち、学ぶことのできるまちづくり」が目指すビジョン

生涯を通じて学び続ける姿勢や、西洋文明に触れるなど、積極的に自らの見聞を広め、文化財や文化の振興に生かした栄一の姿勢を模範としながら、以下の取組を実践します。

誰もが生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しむことができる環境をつくとともに、郷土への愛着と誇りを育てていきます。

これにより、誰もが生きがいを持ち、生涯を通じて学び、活動できるまちを実現します。

（基本施策・個別施策に
関連する写真）
※デザインの段階で調整

（基本施策・個別施策に
関連する写真）
※デザインの段階で調整

深谷市が目指すSDGsのゴール（文化分野）

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を（社会） あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに（社会） すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう（社会） ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8 働きがいも経済成長も（経済、社会） すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用を推進する</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう（経済） 強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを（経済、社会） 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう（環境、経済、社会） 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>		

市民や事業者のみなさんが取り組めること



- 深谷の文化や歴史を大切にしながら、身近な文化芸術に触れる。
- 日常的に行うウォーキングや体操などを含め、気軽にスポーツ・レクリエーションに親しむ。



2-2 誰もが生きがいを持ち、学ぶことのできるまちづくり

2-2-1 生涯学習の推進 (P. 92)

2-2-2 スポーツ・レクリエーションの推進 (P. 94)

2-2-3 郷土の歴史・文化の継承と活用 (P. 96)

2-2-4 渋沢栄一の顕彰と精神の継承 (P. 98)

渋沢栄一が遺した功績や精神・考え方など（文化分野）

- ・ 栄一は無類の読書好きで、生涯を通じて学び続ける姿勢がありました。幼少期は父の市郎右衛門から漢文の素読を学び、従兄の尾高惇忠おだかじゅんちゆうの私塾へ通い、論語をはじめ四書五経を学びました。また、パリ万国博覧会に随行する道中では、フランス語とともに食事マナーなど外国の風習も学んでいます。
- ・ 幼少期に血洗島の獅子舞などに親しんだことから、芸能など文化財保存による地域振興に力を注ぎました。また、明治20(1887)年に設立された日本美術協会で評議員を務めるほか、明治44(1911)年には、栄一らが発起人となり、日本初の西洋式劇場として帝国劇場を東京・日比谷に建設しました。
- ・ 栄一の講演録を編集し、一冊に取りまとめられた「論語と算盤そろばん」は、経営者のみならずスポーツでのチーム経営にも積極的に取り入れられ、大リーグプレイヤーの大谷翔平選手は、日本ハムファイターズ時代に栗山監督の勧めにより、この本を愛読していました。



2-2-1 生涯学習の推進

5年後の 目指す姿

市民の多様なニーズに対応した生涯学習の場や機会の提供により、市民が気軽に集い、学び合うことでいきいきとした生活を送っています。

◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
生涯学習を実践している市民の割合	31.3%	38.0%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「自発的な学習や自己啓発活動など生涯学習を実践している」と答えた市民の割合であり、生涯学習が推進されているかを測る指標です。		
公民館の稼働率	30.1%	35.0%
市内12公民館全室の1時間ごとの平均稼働率であり、生涯学習施設の利用状況を測る指標です。		
市民1人当たりの図書館資料の貸出 点数	3.47点	4.0点
図書館本館、4分館での貸出点数の合計を人口で割った平均値であり、図書館サービスが充実しているかを測る指標です。		

◆施策を取り巻く社会状況

人生100年時代の到来、働き方改革の推進、自由時間の増大を背景に、リカレント教育や生涯学び続ける生きがいのための学び、知識や技術習得のための学びなど、多様な学習活動へのニーズが高まっています。また、インターネットなどの情報通信技術の発達や携帯情報端末の普及により読書環境が変化し、図書館のニーズが高度化、多様化しています。

◆深谷市の現状と課題

1 市内12の公民館では、利用団体による自主的な活動、公民館が開催する学級講座、体育レクリエーション活動など、さまざまな活動が活発に行われています。また、ふかや市民大学を実施し、市民の学ぶ機会を提供しており、こうした取組により、生涯学習を実践している市民の割合は、概ね増加傾向にあります。特に令和4(2022)年度から公民館利用の対象者を拡大することで、市民の多様な学習活動機会の充実が期待されており、今後も、充実した学習講座の実施と継続的な学習活動の支援が求められています。

2 新たな公民館の整備を進める一方、多くの公民館や図書館で維持管理費の増大、施設設備の老朽化などへの対応が課題となっています。

3 市内に5カ所ある図書館では、生涯学習を支援するための資料を所蔵するとともに、おはなし会や各種講座などを開催し、学習の機会と場所を提供しています。近年の読書環境の変化に



より、図書館の利用者は減少傾向にあり、今後はメディアの多様化に対応し、市民のさまざまな要望に応える図書館づくりを進める必要があります。

◆取組方針

1 市民のニーズに応える生涯学習を支援します

各地区における公民館事業のさらなる充実を図るとともに、企業などの専門的知識・技術を活用した講座などの開催により、市民の学習機会の拡充を図ります。また、ふかや市民大学の運営及びその卒業生からなる校友会などと連携した事業の実施などを通して、継続的な生涯学習活動及び市民の学びの成果を地域に還元し、市内に学びの循環が生まれる仕組みづくりに取り組みます。

【主な事業】

公民館事業、生涯学習推進事業

2 生涯学習施設を整備・充実します

公民館や図書館の利用環境を整備し、機能の充実を図るとともに、施設の老朽化や快適な学習環境づくりに対して、必要な修繕・改修を実施するなど生涯学習施設の整備・充実を図ります。また、公民館・図書館の適切かつ効率的・効果的な施設管理・運営を行います。

【主な事業】

社会教育施設整備事業、社会教育施設維持管理事業、図書館管理運営事業

3 図書館サービスを充実します

各館の特色を活かし地域の情報拠点として、資料を収集・整理し、保存するとともに、インターネットを活用するなど、多様な市民のニーズに応じ、さまざまな形式での情報提供に努めます。また、おはなし会や講座などのイベントを引き続き実施し、図書館サービスのさらなる充実を図ります。

【主な事業】

資料管理事業、読書推進事業

◆関連する個別計画

- ・第3期深谷市教育振興基本計画（令和5(2023)年度～令和9(2027)年度）
- ・第3次深谷市子ども読書活動推進計画（令和5(2023)年度～令和9(2027)年度）

◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール	
ターゲット	7, a

2-2-2 スポーツ・レクリエーションの推進

5年後の 目指す姿

誰もがスポーツに参加できる環境が整備され、一人ひとりが身近でスポーツ・レクリエーション活動を楽しみ、健康で生き生きとした生活を送っています。

◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
スポーツやレクリエーションを行っている市民の割合	54.3%	59.0%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」「ときどき行っている」と答えた市民の割合であり、スポーツ・レクリエーションが推進されていることを測る指標です。		
スポーツ施設の利用者数	31万5,000人	57万3,000人
総合体育館(ビッグタートル)などのスポーツ施設の年間利用者数であり、気軽にスポーツに親しめる環境が整っているかを測る指標です。		

◆施策を取り巻く社会状況

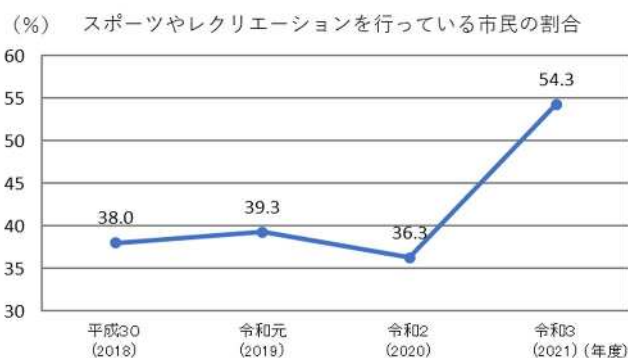
ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの2大国際大会では、多くの方がスポーツ観戦を楽しみ、スポーツへの関心が高まりました。生活様式や働き方の変化で、健康への意識が高まる一方、地域においてスポーツを楽しむ人、支える担い手の減少が問題となっています。

◆深谷市の現状と課題

1 ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックを契機に開催したスポーツイベントへの参加者、体育館や公民館の体育室などのスポーツ施設の利用者数は増加しています。スポーツをはじめるきっかけづくりのために、まずスポーツを見る機会を提供する必要があります。また、指導者の育成やスポーツイベントの開催などにより、スポーツを楽しめる環境づくりも必要です。

2 日常的にスポーツ・レクリエーション活動を行っている市民の割合は、増加傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響によって一時的に減少しています。今後、健康寿命の延伸の観点から、誰もが「楽しむこと」「健康維持と体力向上」「習慣化」ができるスポーツの普及を推進していく必要があります。

3 スポーツ施設の老朽化が進んでいるため、計画的な改築や改修を実施することで、利用者の利便性を高めていくことが求められています。



◆取組方針

1 市民が気軽にスポーツに親しめる環境をつくります

トップレベルのスポーツ観戦の機会を提供するとともに、スポーツを身近に感じ主体的にスポーツに取り組むきっかけづくりを促進します。また、スポーツ関係団体と連携し指導者の育成を支援するとともに、スポーツイベントを開催して、スポーツを楽しめる環境づくりに努めます。

【主な事業】

生涯スポーツ推進事業、スポーツ・レクリエーション団体活動支援事業

2 誰もが生涯を通じてできるスポーツの普及を推進します

誰もが日常的に実践できる「みんなのふっかちゃん体操」、ウォーキングやマラソンなどの生涯スポーツを仲間とともに楽しみながら健康維持と体力向上ができるよう、健康づくりへの取組を推進します。また、東京パラリンピックのレガシーとしての健常者も障害のある人もともに楽しめるインクルーシブスポーツを推進します。

【主な事業】

生涯スポーツ推進事業、スポーツ推進委員活動支援事業

3 スポーツ施設の利用環境の充実を図ります

身近な場所で気軽にスポーツ・レクリエーション活動ができる機会を提供するとともに、総合体育館をはじめとしたスポーツ施設の利用を促進します。また、老朽化した施設の設備を計画的に改修し、利用者の利便性の向上に努めます。

【主な事業】

総合体育館整備管理事業

◆関連する個別計画

・第3期深谷市教育振興基本計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール			
ターゲット	4	7	1

2-2-3 郷土の歴史・文化の継承と活用

5年後の 目指す姿

郷土の誇る歴史や文化が保護・継承され、それらに触れる機会が充実し、市民が郷土意識を深めています。また、郷土の偉人の業績に触れるイベントなど通じて、市民団体や市民と訪問者との交流が盛んになっています。

◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
芸術鑑賞や文化活動を行う市民の割合	18.7%	32.0%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった」と答えた市民の割合であり、市民が行う文化芸術活動が支援されているかを測る指標です。		
無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合	92.0%	96.0%
市内の無形民俗文化財の指定団体のうち、後継者育成を行う団体の割合であり、深谷が誇る歴史や文化が保存・継承・活用されているかを測る指標です。		

◆施策を取り巻く社会状況

地域固有の伝統や文化財については、急激な時代の流れの中で、その維持・継承が困難となっています。一方、文化財を観光資源として活用するなど、幅広い活用も進んでいます。また、文化芸術は市民が心豊かな生活を実現するために必要不可欠なものであることから、文化芸術に触れる機会や文化芸術活動への支援が求められています。

◆深谷市の現状と課題

1 身近な場所で文化芸術に触れる機会として、企画展示やコンサート、映画鑑賞会などを提供するとともに、文化団体への補助金を交付するなど行っており、引き続き若年層を含む幅広い世代の方にも郷土の歴史・文化に触れてもらうための機会を提供していくことが必要です。また、市民の文化芸術活動が一層振興されるように、文化会館のあり方などについて検討が必要となっています。

2 ホフマン^{わがま}輪窯、幡羅^{はら}官衙遺跡などの重要文化財や史跡をはじめとする歴史的資料を守り伝えつつ、幅広く活用していくことは、歴史・文化の継承と発展のためにますます重要となっています。

3 郷土の偉人の業績や郷土の魅力を伝えるための企画展、講演会などを行っており、今後は、来場者の多様なニーズに応じた展示内容や各種講座など、学習機会のさらなる充実を図ることが必要となっています。



◆取組方針

1 市民が行う文化芸術活動を支援します

企画展覧会やコンサート、ホームページのデジタルミュージアムなどを活用して地域ゆかりの芸術作品や偉人の功績に関する情報など、市民が文化芸術に直接触れる機会を提供します。また、市内で文化活動を行う団体や個人に対して、発表機会の提供や広報紙及び SNS を通じ周知するなど、文化芸術活動が振興されるよう支援を行います。

【主な事業】

文化振興事業、学術文化活動奨励事業

2 深谷が誇る歴史や文化を保存・継承・活用します

市内の重要な文化財に対する「市指定文化財」の指定や重要文化財などの整備や、適切な維持管理により、市内に所在する文化財を保存・継承し、その文化財によって市内外の人々が深谷市に魅力を感じることができるよう活用を図ります。また、深谷市の歴史や文化について、郷土に対する理解や関心を深めるとともに、市に関する歴史的資料の散逸を防ぎ、歴史を後世に伝えていくための取組を行います。

【主な事業】

文化財活用事業、埋蔵文化財調査事業、文化財施設管理活用事業、文化財保護事業

3 郷土にゆかりのある偉人や歴史を紹介する取組を行います

郷土の偉人や地域にゆかりがありながら、普段取り上げられる機会が少ない偉人の功績を調査研究し、市民への理解・浸透を図るとともに、深谷市の歴史を紹介する講座や企画展示を行い、市内外に情報を発信します。また、市内小中学校の児童生徒向けに歴史を身近に感じられる各種教室を開催するなど、学習機会の充実を図ります。

【主な事業】

文化振興事業、文化財活用事業、郷土の偉人顕彰事業

◆関連する個別計画

- ・第3期深谷市教育振興基本計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）
- ・重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画（平成27（2015）年3月～）
- ・国指定史跡幡羅官衙遺跡群保存活用計画（令和3（2021）年3月～）

◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール		
ターゲット	7	4

2-2-4 渋沢栄一の顕彰と精神の継承

5年後の 目指す姿

全国的に渋沢栄一のことが広く認知され深谷市の認知度が向上するとともに、深谷市の交流人口が増加しています。また、「論語と算盤」をはじめとした渋沢栄一の考えを継承し、その知恵を学んで進取の精神で未来を切り拓く人たちが増加しています。

◆まちづくり指標

指標名	実績値(令和3(2021)年度)	目標値(令和9(2027)年度)
渋沢栄一ゆかりの施設の来場者数	48万6,698人	27万4,000人
渋沢栄一にゆかりのある「旧渋沢邸『中の家』」「尾高惇忠生家」「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」「渋沢栄一記念館」の1年間の来場者数であり、渋沢栄一をはじめとした郷土の偉人を生かした取組が行われているかを測る指標です。		
渋沢栄一ひとづくりカレッジの参加者数	351人	30万人
渋沢栄一の精神の継承のため実施する「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」及びその関連事業への1年間の参加者数であり、現場への来場者数とオンラインでの視聴者数を合算したものです。		

◆施策を取り巻く社会状況

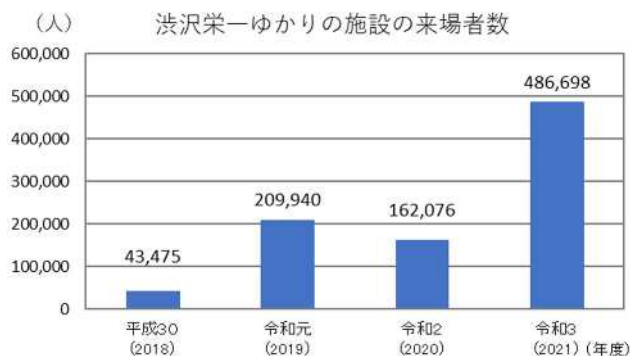
渋沢栄一が主人公である大河ドラマ「青天を衝け」が令和3(2021)年2月から12月まで放送され、また、令和6(2024)年に発行される新一万円札の肖像に採用されるなど、渋沢栄一への注目が飛躍的に高まっています。

◆深谷市の現状と課題

1 新一万円札肖像画決定や大河ドラマ放送により、渋沢栄一ゆかりの施設である「渋沢栄一記念館」「旧渋沢邸『中の家』」「尾高惇忠生家」「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」への来場者が増加しています。また、令和3(2021)年には大河ドラマ館を市内に開設し地域活性化に寄与しました。大河ドラマ放送での盛り上がり为契机としてこれからも渋沢栄一の功績や精神を全国に広めるとともに、渋沢栄一を核とした地域活性化を継続することが必要となっています。

2 渋沢栄一記念館を中心に常設展示や企画展、講演会など、来場者の多様なニーズに応じた展示や各種講座などを行っています。今後はボランティアなどとの市民協働を含めた事業を推進し、生涯学習の機会のさらなる充実を図ることが必要となっています。

3 不確実性の高い時代にあって、高い志を持ち、日本や世界の未来を切り拓く人財を育てるため、企業経営者などが渋沢栄一の精神を学ぶ場など、栄一の考えを継承する機会が必要となっています。



◆取組方針

1 渋沢栄一関連施設の来訪者を増やして地域の活性化を図ります

渋沢栄一関連のイベントなどを実施することにより、広く渋沢栄一の魅力を発信することで、渋沢栄一に興味を持ち、渋沢栄一関連施設を訪れたいと思う人を増やします。また、訪れた方々が市内の魅力ある観光地を巡ることができるよう、回遊策を構築し、地域の活性化につなげます。

【主な事業】

渋沢栄一政策推進事業、渋沢栄一地域活性化事業

2 渋沢栄一を生かした生涯学習の機会の充実を図ります

渋沢栄一に関連する資料の調査研究を進め、その成果を生かした常設展、企画展を開催することにより、渋沢栄一の功績を広く顕彰します。また、東京都北区にある渋沢史料館をはじめ、渋沢栄一ゆかりの地域などと連携しながら、展示活動のさらなる充実を図ります。さらに、講演会や連続講座「栄一塾」の開催などを通して、市民の生涯学習の機会のさらなる充実を図ります。

【主な事業】

渋沢栄一顕彰事業、「論語の里」施設管理活用事業

3 渋沢栄一の精神を学ぶ「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」を推進します

渋沢栄一は約500の企業の設定や経営に関わり、その中心には道徳と経済を両立させるといふ精神があります。この渋沢栄一の精神を「ひとづくり」と捉え、ビジネス教育と人材育成を目的とした実践的な取組について、経営者などが学べる場をつくり、未来のために知恵を出し合い、実践できる仕組みを構築します。

【主な事業】

渋沢栄一政策推進事業

◆関連する個別計画

- ・第3期深谷市教育振興基本計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）
- ・「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

◆SDGsとの関連：主に関係するゴール

ゴール	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>
ターゲット	4, 7, a	1, 3, 9	2	4	17

